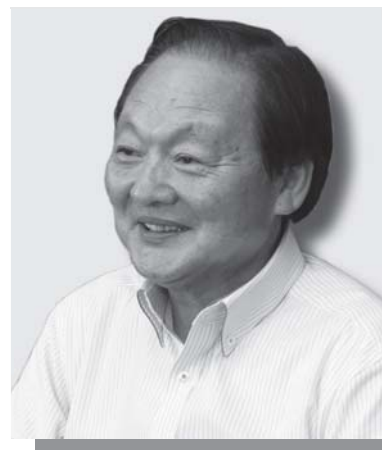


文化祭見どころ紹介

50回目の文化祭、参加団体は例年以上に熱がこもっています。

ここでは各部門の代表者から、見どころを紹介します。

50回を記念して～主催者挨拶～



第50回を迎えて
函南町長
仁科 喜世志

第1回の函南町文化祭が開催された昭和44年は、高度成長期、東海道新幹線三島駅が4月に開業し、函南町の人口が年間で約千人増加するなど、町が急激に発展している時期でした。

文化祭は、町民一人ひとりが生涯を通じて自ら学び、その成果を生かして自己実現を図る生涯学習の成果発表の場として開催されてきましたが、近年は多くの団体が文化協会に所属され、毎年大変優れた文化芸術を発表していただいています。

文化芸術は、私たちに感動や生きる喜びをもたらす、人生を豊かにするものであると同時に、真のゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していくうえで不可欠な社会的財産です。そして、社会全体を活性化する大きな力となり、その果たす役割はきわめて重要だと考えます。

今後も生涯に渡る学びを支え、誰もが生き生きと暮らせる函南町を目指して参りますので、町民の皆さまのますますのご活躍をご祈念申し上げます。

最後になりますが、函南町の文化振興に長年に渡りご尽力頂いております文化協会ならびに関係者の皆さま、また、これまでご尽力されました先人の皆さまに心より感謝申し上げます。

前期作品展 内匠 秀年

新しい発見を求めて、体験教室であなただけの一品を作ってみませんか。

ミサンガ・洗剤不用たわし・和紙のちぎり絵・押し花コースター・ガラスのフォトフレームなどの制作を無料で体験できます。

また、写真5団体、陶芸2団体、手工芸7団体の作品を展示します。



町民作品展 露木 香代子

町民作品展は、町内在住・在勤の文化協会会員以外の皆さんと函南女性の会、チャレンジ教室、サロンの作品発表会です。

出品作は、書画・工芸・手芸・写真など皆さんが丹精込めて誕生した個性溢れる作品です。

昨年、来場者が長く足を止めて見入る姿や、作成者と言葉を交わしている様子に見る喜び・伝える喜びを実感しました。



芸能発表会 杉山 むつ美

芸能発表では各団体が工夫を凝らした演目をご用意しています。50回記念として、エコグレース、ムジカ・アマビレ、かなみ女性の会の3団体、総勢60人がコーラスを披露します。また、ブルーキャッツの皆さんが華やかな猫おどりを披露します。

ステージで繰り広げる躍動感あふれる発表をお楽しみください。



後期作品展 高橋 和恵

文芸、短歌、書道、歴史、水彩画、生け花、町民作品の力作が並びます。日頃の研鑽の成果をご鑑賞ください。感動や発見があります。

また、生け花体験には気軽に参加して花の可愛らしさを楽しんでください。



次の半世紀に向かって
文化祭実行委員長(文化協会会長)
榎本 政夫

表現活動は、人として生きていくことの証しです。太古の昔から、人間が他の動物と違うのは、自己の内実をさまざまな形で表現をしながら文化を創ってきたことにあります。

自己表現の交流、それが、身近なところでは文化祭となって華開きます。

今、地域の活性化に「交流」がキーワードの一つになっています。交流が活発になるとは、一般的に、交通網の整備に伴って物流や観光客などの人の行き来が盛んになることを指します。では、文化事業ではどうでしょうか。

役目上学ぶために、近隣市町の文化祭を見に行きます。そのことで函南町文化祭の良さを再発見したり、内面や運営面で自分たちの課題を見いだしたりします。

次の時代は、それぞれの地域文化の特色を生かしながらも、相互交流が活性化することによって、文化事業でも「伊豆は一つ」の方向性へと進んでいくのではないのでしょうか。函南町文化祭の半世紀の実績は、十分に広域文化の基軸となるであろうと思っています。



笠雲に期待を込めて

今年パンフレットのメインに笠雲の写真を使用しました。富士山に笠雲がかかる、昔から、富士の裾野で農業を営む人々は、ようやくやってきたとの思いで、仕事に取り掛かる準備をします。人によっては、笠雲は、待ち望んでいたことの前兆でもあるわけです。

一般的には、天気は一時的に下り坂になります。しかし、雲は常に動いています。雲の動きで雨もあれば曇りもあり、そして雲去れば晴天がやってきます。この写真の雲も動いている途中です。

50回の歴史を刻んできた文化祭の上にも、いろいろな雲が流れていきました。私たちは、次の半世紀が晴天の時代になるであらうとの思いで、この笠雲を「瑞雲」ととらえています。